



SOCIAL
MASTER
SCHOOL

生涯現役

北九州市
生涯現役
夢追塾

北九州市
生涯現役
夢追塾

20
期生



www.facebook.com/yumeoijuku/
夢追塾ホームページ www.yumeoi.org/

お問い合わせ先

北九州市生涯現役夢追塾 事務局 〒805-0071 北九州市八幡東区東田2丁目5-7 (NPO法人 里山を考える会 内)
TEL.093-662-3100 FAX.093-662-3800 Mail:info@yumeoi.org

※「生涯現役夢追塾」は北九州市より委託を受けNPO法人里山を考える会が運営を行っています。

発行日2026年4月

卒塾生に 期待 すること

生涯現役 夢追塾
名誉塾長
武内 和久



夢追塾は、50歳以上の皆様が、これまで培ってこられた豊かな経験や知見を生かし、夢や志を持って社会貢献や経済活動に取り組み、生涯現役で活躍されることを目指して、2006年に開塾しました。

長年にわたり活動を支えてくださっている関係の皆様に、名誉塾長として、心より感謝申し上げます。

卒塾生の皆様は、カリキュラムを通じた学びを深めるとともに、塾生同士や先生方、先輩卒塾生との交流を重ね、かけがえのないつながりを築かれたことと思います。

開塾20周年を迎えた今回は、Z世代とのコラボも実現し、「自分にはなかった発想に出会えた」といった声も伺いました。世代を超えた対話は、今後の活動へとつながる、新たな視点や刺激をもたらしたのではないのでしょうか。

これからも、地域や社会を支え、多世代をつなぐリーダーとして、今だからこそのできる新たな挑戦を続け、彩りある人生を歩んでいただくことを期待しています。

北九州市は今、確かな前進を続けています。人の流れが生まれ、企業の投資が広がり、「選ばれるまち」としての力が着実に高まっています。その原動力は、このまちで挑戦を続ける一人ひとりの存在であり、卒塾生の皆様も、その大切な一員です。

夢追塾の学びと経験を、北九州市の未来へ。

ともに、このまちの次の時代を創っていきましょう。
皆様のご活躍を、心から応援しています。

夢追塾のミッション

すでに突入している長寿社会においては、仕事や家庭だけでなく、自分たちの住まう地域社会で市民一人一人が役割を持ち、活動していくことが必要とされています。

特にシニア世代は、本人も気づいていない様々な資源を持っており、それらを地域で活用することが期待されています。

生涯現役夢追塾ではそんなシニア世代がこれまでにない学び方で、自分の資源価値に気づき、同じ志を持つ仲間を作り、地域で夢を実現させることをミッションにしています。

シニア世代がいきいきと夢を実現し、社会に貢献していくことが、長寿社会をよりよい世界に導くことにつながると信じています。

生涯現役夢追塾 20期生

赤嶺 公誠	あかみね こうせい
石田 篤頼	いしだ あつより
内村 典子	うちむらのりこ
江口 哲郎	えぐち てつろう
大塚 絹子	おおつか きぬこ
上甲 香	じょうこう かおり
高野 愛美	たかの よしみ
富田 誠二	とみた せいじ
西山 幸四郎	にしやま こうしろう
新田 令子	にった れいこ
植原 博文	ならはら ひろふみ
細川 忠広	ほそかわ ただひろ
前田 久徳	まえだ ひさのり
眞鍋 孝輔	まなべ こうすけ
宮崎 吉輝	みやざき よしてる
吉村 太志	よしむら たいし

北九州市立大学経済学部 松永ゼミ

松永 ゆら	まつなが ゆら
片岡 佑美	かたおか ゆみ
大村 瑠奈	おおむら るな
亀岡 七菜	かめおか なな
末寄 詩織	すえざき しおり
植森 音葉	うえもり おとは
木村 実千瑠	きむら みちる
古賀 天翔	こが たかと
内村 雪乃	うちむら ゆきの
天野 栞里	あまの しおり
芝田 伊吹	しばた いぶき
矢野 仁香	やの にこ

「生涯現役夢追塾」卒業生
芳賀 真理子 はが まりこ

20期生 Interview

夢追塾に入塾したきっかけは、尊敬する方からの勧めと、現在携わっている仕事との親和性を感じたことだった。当初は活動を十分に理解していたわけではなく、「まずはやってみよう」という直感に従い、一歩を踏み出したという。実際に参加してみると、名刺交換が禁止された独自の環境下で、肩書にとらわれない多様な人々との関わりが、新鮮な刺激となった。普段の生活では出会えない考え方やものの伝え方、価値観に触れることができたという。その刺激は、

日々の仕事にも良い影響を与え、間接的に働く上でのモチベーションの向上にもつながっている。現在は北九州で経験を積みながら、地域に貢献し続ける存在になることを目標としている。そして、将来的には地元宮崎にその学びを持ち帰り、地域の発展に貢献したいという思いを強く抱いている。

飛び込んだ先の 刺激が、 仕事の 原動力に

あかみね こうせい
赤嶺 公誠さん

赤嶺さんの話から、「まずは飛び込んでみる」との大切さを強く感じた。内容を完全に把握できていない状況でも、まずは行動することで新しい学びや刺激が得られ、それが仕事へのモチベーションにつながっている点が印象的だった。また、仕事をしながら常に学び続ける姿勢が素敵だと感じた。私も赤嶺さんの行動力と学び続ける姿勢を憧れに、挑戦し続けていきたい。

まつなが ゆら
インタビュー／松永 ゆら
(北九州市立大学経済学部3年生)



20期生 Interview

もともとイノシシを専門とした有害鳥獣駆除活動を行っていた石田さん。将来的には解体場の運営にも携わりたいと考えていたが、知識や人脈がなく、なにか始めればよいかわからない状況だった。そんなSNSで夢追塾の存在を知り、入塾を決意した。実際に参加してみると、自分がこれまで無意識に過ごしてきたことや、知らなかった知識を構造的に学ぶことができた。また、経験がない分野への挑戦やこれまで出会うことのなかった多様な職種の人々との交流が自分の成長にもつながった。

た。活動を通して学んだことは人を巻き込むことであり、それはビジネスプランにも組み込まれている。鳥獣の捕獲から解体までの工程は一人では成り立たず、地域課題解決には住民を巻き込むことが重要である。「若い世代により良い日本だと思ってもらえる社会をつくりたい」。そう言った石田さんは夢追塾の学びをこれから実践につなげていきたいと意気込んでいた。

有害鳥獣駆除という現場に身を置きながら、解体場の運営という新たな目標に挑もうとする石田さんの姿に、新しいことを始める勇気の重さを感じた。さらに、地域課題の解決には住民を巻き込むことが不可欠であるという考え方や、「若い世代により良い日本だと思ってもらえる社会をつくりたい」という思いに深く共感し、未来世代のために行動し続ける姿勢は、私の目には一人の人間として非常に格好良く映った。

未来のための 今できる 行動

いしだあつより
石田 篤頼さん



20期生 Interview

友人から声をかけてもらったことが、夢追塾を知るきっかけだった。人生100年時代、50歳という人生の節目を迎えたタイミング。これまでの自分を振り返り、これからどう生きていくかを考えたいという想いが重なった。もともと「自分のことは自分で解決すべき」と人を頼ることが苦手な性格だったが、夢追塾は内村さんにとって、「息抜きの場所」であり「自分の居場所」になった。多様な生き方に触れ、人生を俯瞰することで、等身大の自分を見つめられるようになったという。

多忙で恐怖に感じた時期もあったが、「正直に頼っていい、自分一人では背負わなくてもいい」と気づけたという。現在は、自分の心の底からやりたかったことを見つめたいと考えている。自分のことを後回しにしても社会のために心を尽くしてきた内村さんだが、今は「自分を持って生きる」我が子の姿に感銘を受け、自らも自分らしくあることを大切に、新たな人生の景色を見つめている。

自分らしく、 等身大で 生きる

うちむらのりこ
内村 典子さん



かたおかゆみ
インタビュー／片岡 佑美
(北九州市立大学経済学部3年生)

話を伺う中で、内村さんのふとした言葉や表情からにじみ出る「自分よりもまず周りを思いやる深い優しさ」が強く印象に残った。一方で、夢追塾を通じて周囲を信頼して頼るようになった内村さんの姿に、真っ直ぐな強さを感じた。自分の信念を大切にする子どもから学びを得るという謙虚な姿勢も、内村さんの魅力そのものである。私も内村さんのように、自分を大切にしながら、周りと手を取り合える大人になりたいと思った。



おおむらのりな
インタビュー／大村 瑠奈
(北九州市立大学経済学部3年生)

20期生 Interview

夢追塾での活動は、淡々と始まった。当初は入塾のイメージを持っていなかったが、誘いを受けて飛び込んだことで、結果として新たな視野が開けたという。約30年のキャリアを歩む中で、人との接点は限られていたが、異なる立場や経験を持つメンバーとの交流は大きな刺激となった。最終プレゼンでは、周囲のデジタルツールの活用力に驚き、自分の仕事においてもさらなる活用必要性を実感したという。特に、柔軟な発想やスピード感のある取り組みに触れたことで、自分自

身の価値観にも変化が生まれた。やると決めたら最後までやり遂げる性格の江口さんは、夢追塾での経験を人生の転機と捉えている。将来はこれまでのスポーツ経験も活かし、部活動の地域移行といった課題にも正面から向き合いながら、地域に新たな価値を生み出す活動に関わりたいと語るその姿には、仕事の枠を超えた情熱が滲んでいた。

学生の私を気遣いながらも、気さくに話してくださる、明るく温かい方だった。北九州市の副市長という立場に少し緊張しながら臨んだインタビュだったが、話し始めた瞬間、その笑顔に触れ、緊張は一気にほぐれた。長年のキャリアを持ちながらも新しいことを柔軟に取り入れ、チャレンジを恐れず前向きに取り組む姿に感化された。私もどんなことにもまず一歩踏み出し、楽しむ気持ちを忘れず挑戦していきたいと感じた。

インタビュアー／亀岡 七菜
(北九州市立大学経済学部3年生)



えぐちてつろう
江口 哲郎さん

揺らがぬ
歩みの、
その先へ

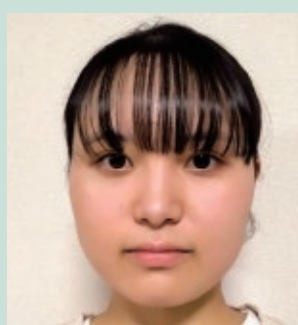
20期生 Interview

現職議員として地域や社会課題に向き合う大塚さん。夢追塾に入ったきっかけは、夢追塾卒業生である知人や妹からの勧めであった。Z世代との交流やDXの学びが得られる点にも魅力を感じ、参加を決意したという。夢追塾では、自身の拠点でもある枝光本町商店街に人を呼び込みたいという思いから活動に取り組んだ。当初は塾の開設を思い描いていたが実現には至らず、形を変えて読書会を定期的に開催することとなった。この取り組みにより、これまで商店街に縁がな

かった人々が足を運ぶきっかけとなり、「ここ、なんかいいよね」と感じてもらえるような場を作る面白さを実感したと語る。今後も議員活動を通じて、地域コミュニティの活性化や若者と地域の関係づくりに取り組んでいきたいと考えている。人と人とのつながりを起点に、誰もが関わりやすい社会を実現し、その中で新たな価値や可能性を生み出していくことを目指している。

大塚さんからは、真摯に地域課題に向き合う姿勢と、地域に対する深い愛情が伝わってきた。地域の課題を具体的に捉え、行動力をもって一つ一つ取り組み、実際に人々の生活をよりよくしようとする姿がとても印象的であった。人と地域を結び、新たな価値や可能性を生み出していこうとする姿勢には大きな希望を感じる。私も大塚さんのように社会に関わり続け、周囲に良い影響を与えられる人でありたい。

すえぞきしおり
インタビュアー／末寄 詩織
(北九州市立大学経済学部3年生)



まちを想い、
行動し、
未来へつなぐ

おおつかきぬこ
大塚 絹子さん

20期生 Interview

「楽しそう」。友人が夢追塾のイベントサポーターとして活動しているのを見て夢追塾に興味を持ち、入塾を決めた。実際に入塾してみると、講義は面白かったが、発言する機会が多く、緊張することも多かった。しかし、夢追塾は失敗する場・試してみる場だと学び、「失敗してもやってみよう」の考えのもと、「むかし食道」というプロジェクトの発案者になった。プロジェクトはチームメンバー全員が協力し合いながら、順調に進んだ。公開プレゼンテーションでは、自分の思いを発表する時

間があり、「むかし食道」の発案者として自分の思いを語った。原稿に頼らずありのままの言葉で思いを語ることで周囲の心に響いたという。プロジェクトを通して、年齢関係なく誰もがホッと安心できる交流の場づくりの重要性を感じた。これまでは自分のことで精一杯で地域活動に参加できなかったが、夢追塾でその大切さを実感し、今後は積極的に地域活動に関わっていききたいと語る。

取材を通して、上甲さんの温かな人柄に触れることができた。プロジェクトの発案者でありながら、自身のことよりもまずメンバーへの感謝を口にされる姿が印象的だった。その姿勢から、人と関わる際に感謝の心を忘れない大切さを改めて学んだ。また、取材中の上甲さんの「失敗してもやってみよう」という言葉に背中を押され、新しいことに挑戦する勇気をもらえた。今後は、この言葉を胸に何事にも勇気をもって挑戦していきたい。

インタビュー／植森 音楽
(北九州市立大学経済学部3年生)



じょうこうかわり
上甲 香さん

挑戦へと
踏み出す
その一歩

20期生 Interview

友人からの誘いで入塾した夢追塾。そこでの活動は、チームワークを学ぶ絶好の機会だったと語る。公開プレゼンテーションに向けたチーム活動では、伝統料理の継承と地域交流をテーマに「むかし食道」プロジェクトを企画した。約3か月間のプロジェクト期間中、高野さんはリーダーとして、6人のメンバーのスケジュール管理や役割分担を行った。さらに、自らデザインツール「Canva(キャンバ)」の操作を学び、プレゼン資料の完成度を向上させた。企画段階では一人ひ

とりの意見を尊重し、実行段階では主体的に行動することで、プロジェクトを成功へと導いた。夢追塾で得たチームワークや主体性を生かし、将来は憩いの場所のような小料理屋の運営を目標に掲げている。その実現に向け、専門家から助言を受けるとともに、食の安全を支える「食品衛生責任者」の資格も取得した。そんな高野さんがまとめたチームが作っていく料理屋が実現する日が楽しみだ。

リーダーとしてチームをまとめながら、新しいスキルや資格取得にも挑戦している姿が印象的だった。特に、プロジェクトを進めていくにあたって周りのチームの技術に合わせるために自らパソコンスキルを学ぶ姿に高野さんの強い責任感を感じた。また、メンバーの意見を尊重しながら進める姿勢や将来のビジョンに向けて資格を取得する実行力が素晴らしいと思った。自分も高野さんのように主体的に行動して成長していきたいと感じた。

インタビュー／木村 実千瑠
(北九州市立大学経済学部3年生)



想いを
形にする
挑戦力

たかのよしみ
高野 愛美さん

20期生 Interview

中間市で地域活動に情熱を注ぐ富田誠二さんが、夢追塾への参加を決めたのは、自身の活動の方向性を確かめる「答え合わせ」のためだった。入塾後、富田さんを待っていたのは想像を超える「人との出会い」だった。旅行、行政、狩猟関係者への繋がりなど、異なる背景やネットワークを持つ仲間が集い、北九州の活性化に挑む。一人では限界を感じていたことも、このチームなら「夢物語ではなく、リアルに実現できる」と確信したという。活動を通して学んだのは、仲間の

大切さと、何より「続けること」の重要性だ。5年は通過点に過ぎず、10年、20年と継続してこそ真の地域貢献になる。そのために必要なのは、周囲を巻き込む力。学生や卒業生までも繋いでいく夢追塾の姿に、自ら足りなかった「巻き込み力」を再確認したという。「出会った仲間と共に、活動を継続させていく」。志を同じくする仲間と描く未来は、もう夢物語ではない。

富田さんとお話をして、志を共にする「仲間」の存在がいかに大切かを肌で感じた。一人では限界があることも、仲間の繋がりを介せば「夢物語」が現実になる。また、5年という歳月さえ通過点に過ぎず、10年、20年と継続してこそ真の地域貢献になるという言葉には強い衝撃を受けた。「巻き込み力」という自分になかった視点を学ぶことができた、人との出会いを力に変えて歩む富田さんの姿は、これからの私にとって確かな道標となった。

「答え合わせ」の

先に見つけた、

新たな課題と

仲間

とみたせいじ
富田 誠二さん



20期生 Interview

西山さんが夢追塾に求めたものは、「つながり」だった。現役を引退後、多くの趣味とともに市民センターでの活動にも励んでいた、こうちゃん。毎日誰かと関わる日々を過ごす中で、社会の高齢化を感じていた。「高齢者だけじゃ続けられない行事がある」。Z世代に地域活動を盛り上げてもらうためのつながりを求めて、こうちゃんは入塾を決意した。入塾後も想いは変わらず、食文化を通じてつながりを創造する「むかし食道」の取り組みに参加。伝統的な料理を作り、

みんなで食べることで、食文化を受け継ぐというものだった。こうちゃんは料理という新しい挑戦をしつつ、持ち味の人脈を活かして集客に尽力。結果、7名の参加と「また参加したい」という高評価を獲得した。次の開催を見据えて、より若い世代の参加を望み、このつながりが広がることを望んでいる。つながりがつなぐを呼ぶ。こうちゃんは御年73歳。「未来を作るつながり」を創造している。

社会とのつながりは、人間にとつて必要なこと。そんなことは知っていた。しかし、こうちゃんが言った「ひとりでテレビ見て食事してもおいしくない」という言葉聞いてはつとしました。それはまさに私だった。個々を尊重する社会で「つながり」を創造することはさらに難しいことだろう。しかし、だれも一人では生きられない。若者の私たちこそ「つながり」を求めていくべきなのかもしれない。と、こうちゃんと話しながら考えていた。

73歳、 未来を作る

にしやまこうしろう
西山 幸四郎さん



おおむらるな
インタビュアー／大村 瑠奈
(北九州市立大学経済学部3年生)



うちむらゆきの
インタビュアー／内村 雪乃
(北九州市立大学経済学部3年生)



20期生 Interview

特別支援学校の教諭として、これまで幅広い分野で教壇に立ってきた榎原さん。教育の道を志した原点は、教育実習時代の経験にあるという。夢追塾では、「むかし食道」の活動に参加している。複数の活動の中からこのチームを選んだ理由は、「食はすべての人が関わることができる文化だから」だという。食を通して人とのつながりを生み出し、地域の中に温かな関係を築いていきたいという強い思いが伝わってくる。夢追塾での学びは、学校での総合学習や課題解決学

ならはらひろふみ
榎原 博文さん

教える立場から、
再び学ぶ立場へ



こがたか
インタビュー／古賀 天翔
(北九州市立大学経済学部3年生)

長年教員として経験を積んできたにもかかわらず、夢追塾での活動を通してさらに新たな学びを経て、さらに専門的な知識を身につけたいと考えている姿が印象的だった。特に、夢追塾での学びを学校現場での総合学習や課題解決学習と結びつけて捉える視点には、教育者としての深い探求心を感じた。これまでの経験に満足することなく、新たな道に挑戦し続ける姿から、私自身も学ぶ姿勢を大切にしていきたいと強く感じた。



20期生 Interview

友人の「楽しいよ」という言葉に背中を押され、入塾を決めた。軽い興味からのスタートだったが、実際には想像以上に大変な面も多く、学びについていけるのか不安を感じることもあったという。しかし活動を通して、これまで関わりのなかった人たちと関係を築いていく過程に楽しさを見出していった。特に印象的だったのは、チームのプロジェクトが一度白紙に戻り、ゼロから再出発することになった場面である。遅れを取り戻すために、同期のみんなが主体的に動き、アイデアを出し合

い形にしていける姿に信頼と尊敬を感じたという。年齢や経験が異なる仲間が互いに刺激し合う環境は、大きな財産となった。「なんとかなる。自分に真摯に向き合えば」という言葉を大切に活動に向き合う中で、深い仲間意識が芽生えていった。現在は、掲げた目標を達成し、関わるすべての人と喜びを分かち合うことを目指している。このチームがあつてこそ今の自分だと語ってくれた。

巻き込まれて
広がる世界

にったれいこ
新田 令子さん



あまのしおり
インタビュー／天野 栞里
(北九州市立大学経済学部3年生)

取材を通じて、飾らない言葉で「巻き込まれる楽しさ」を語る姿が印象的だった。特に、ゼロから物事を作り上げる過程で見えた同期の行動力や主体性の話が心に残っている。年齢や経験の違いを強みに変え、互いに刺激を与え合う関係性は魅力的である。一人では挫折するような場面でも、信頼できる仲間がいれば楽しさを見出せるのだと学んだ。何かに挑戦することを迷っている人の背中を優しく押してくれるような、温かい勇気をいただいた。

20期生 Interview

同期からの誘いをきっかけに夢追塾に入塾した細川さん。フルネームや名刺交換禁止といった独特のルールで立場にとらわれないフラットな人間関係を築ける点に惹かれたという。実践的なグループワークを通して多くのことを学べたと語る。チームで行うプレゼンテーションの準備期間中、リーダーが参加できなくなる不測の事態に見舞われ、残ったメンバーで企画を再編することとなった。そこで細川さんは役割分担や意見のまとめ役としてチームに貢献した。プロジェクトでは過疎化

していた枝光商店街の息を吹き返すことを目的に大読書カフェの企画を行った。乗り合いタクシーの待合所を活用し、世代や立場関係なく枝光に交流の場を創出した。夢追塾で培った企画力や人の巻き込み方などを生かし、将来は町内会の高齢化問題に対する仕組みづくりを行いたいと語る。世代をつないでいく挑戦が広まるのが、地域を支え変えていく原動力となるのだろう。

世代を

つなぐという

挑戦

ほそかわただひろ
細川 忠広さん



20期生 Interview

結婚を機に北九州へ移住してきた前田さん。「人とのつながりを広げていきたい」という思いから夢追塾への参加を決意した。現在、前田さんはチーム「キャンプファイヤー」に所属し、北九州でジビエを活用していく活動に取り組んでいる。活動の中で「二人ではできないことも、同じ志を持った仲間が集まることで、単なる1+1+1ではなく、10馬力にも20馬力にもなる」という。その言葉からは、人と人とのつながりが生み出す大きな可能性を強く感じた。今後の目標として、

「ジビエの活動をもっと広げていくこと、そしてこの活動を途切れさせないこと」を挙げており、継続して地域に根付かせていきたいという思いを感じた。前田さんにとって夢追塾は、自分に足りないものを発見できる場だったという。様々な立場や経験、人生のルーツを持つ人たちと関わることで、一人では得られない視点や知識に触れられることが、大きな学びにつながっていると語る。

つながりが

生み出す

大きな可能性

まえだひさのり
前田 久徳さん



夢追塾ならではの、年齢や立場に関係なく構築されるチームワークと、地域貢献への挑戦が非常に印象的だった。特に、読書カフェを通して世代間の交流を生み出した点に魅力を感じた。リーダー不在という困難を乗り越え、チームを再建して活動を継続させた細川さんの行動力から、主体的に動くことの大切さを学んだ。地域課題に対して自分事として向き合う姿勢に刺激を受け、私自身も周囲に目を向けて行動していきたいと感じた。

きむらみちる
インタビュー／木村実千瑠
(北九州市立大学経済学部3年生)



前田さんが地域とのつながりをととても大切にしながら活動していることが強く伝わってきた。「二人ではできないことも、仲間が集まることで大きな力になる」という話からは、人との結びつきや協力の大切さを、改めて感じる事ができた。また、夢追塾を「自分に足りないものを発見できる場」と捉えている点も、印象的だった。様々な立場や経験を持つ人たちと関わることで自分の視野を広げていくという姿勢に、学ぶことが多くあった。

こがたかと
インタビュー／古賀天翔
(北九州市立大学経済学部3年生)



20期生 Interview



26歳で会社を創業し、27年経営者として歩んできた眞鍋さん。夢追塾に入ったきっかけは、50歳を過ぎて第二の人生を考え始めた頃に塾の話聞いたことであつた。夢追塾では、これまで経営で培ってきた能力をチームの中で全面的に発揮する一方で、新たな学びも得たという。これまで行ってきた会社経営では、基本的に金銭関係に基づく組織の中で人が動く。しかし夢追塾で出会った仲間は、お金や利害関係ではなく想いでつながった人たちだった。その中で「どうすれば仲間

に動いてもらえるのか」「どうすれば仲間の役に立てるのか」を考える経験は、これまでの会社経営とは全く異なる学びであつたと語る。さらに、人と関わり続けていくことが自分のやりたいことであると実感し、将来はみんながリーダーとなれるような組織づくりに取り組み続けたいと語った。夢追塾でも多くの縁ができ、これからもうそうした縁を大切にしていきたいという。

人とつながり、人を動かす

まなべこうすけ
眞鍋 孝輔さん

20期生 Interview



他人のためは自分のため、だからこそ楽しい。普段から仕事やボランティアで地域活動をやっているが、それは自分が楽しむためのことだ。社会に出ると出会いは極端に少なくなる。そんな中でも地域活動に参加すると同じ想いを持った仲間に出会える。そんな仲間と活動することができ、引退後もそんな活動を続けるための仲間を求めて夢追塾に入塾した。夢追塾では、食文化を紡ぐ「むかし食道」というプロジェクトを立ち上げた。それ

ぞれが作れる時間には差があつたが、想いをもとに集まったので、一人一人が積極的に貢献できた。仕事はお金をもらうからこそその義務的な意識があるが、夢追塾は本当にそれぞれの想いで動いている。何事も楽しくなければ続かない。「むかし食道」にもそれだけの楽しさと自由とつながりがあつた。楽しく暮らすため、夢追塾で得た仲間と共に、世代を超えたつながりの輪を広げていきたい。

他人のためは、自分のため

みやざきよしひろ
宮崎 吉輝さん

インタビューで最も印象に残ったのは、人との出会いの重要性だ。新たな環境に身を置き、挑戦をしてきた眞鍋さんは、その時々で人と関わり、その縁を大切にしてきた。その姿から、ただ待つのではなく、自ら新たな出会いに飛び込むことの大切さを実感し、自分にはその主体性が不足していると気づかされた。これからは人とのつながりを大切にしながら、自ら行動し、新たな出会いを広げていくことで、自分の未来を切り拓いていきたい。

すえざきしおり
インタビュー／末寄 詩織
(北九州市立大学経済学部3年生)



私には地域活動は他人のためという意識があつた。ボランティアをする人は優しい、偉い、そう思っていた。でも、宮崎さんは自分のためだといった。たしかに、家族が風邪をひいたとき、私は看病をする。でも、街角のおじさんが風邪をひいても私は行かないと思う。それが今の「つながり」の現状。だから「つながり」が強くなれば、地域活動はより身近に、必要に思えるのかもしれない。きっと、それが地域活動の本当の姿なのだろう。

うちむらゆきの
インタビュー／内村 雪乃
(北九州市立大学経済学部3年生)



20期生 Interview

吉村さんは知人からの誘いを機に、10年来存在を知っていた「夢追塾」へ入塾した。世代や業種の異なる仲間と一つの目標を共有し、共感しながら進む一年間は、多角的な視点を養う貴重な機会となった。在塾中は、市街地に出没し農作物を荒らすイノシシやシカの被害対策、高齢化が進む猟友会の啓発活動に尽力した。この活動を通じ、改めて「人の大切さ」を痛感したという。周囲を頼り、チームで目的を追求するプロセスこそが、自身のやりたいことを見出す鍵となった。

今後の展望は、20年、30年先を見据えた北九州のまちづくりだ。若者が安心して働き、定住できる環境を整えようと、年長者も穏やかに暮らせる持続可能な社会を目指す。現代の学生には、便利な世の中に甘んじず、対話を重視してほしいと願っている。一人で抱え込まず他者に頼ることで、思考は整理される。そうした経験を経て、将来は自らが誰かに頼られ、相談される存在になりたいほしい。

ひとを、
大切に

よしむらたいし
吉村 太志さん



卒塾生 Interview

会社以外の人とも関わりたい—そんな思いで数年前に夢追塾の門を叩いた。実際に入ってみると、想像以上に多様な価値観に触れ、世界が一気に広がったという。本音で語り合える仲間ができ、顔色をうかがわずにいられる環境は大きな支えとなった。現在は夢追塾の事務局として活動している。塾生から運営側に回ってからは、「どうすれば楽しく学べるか」を常に考えるようになり、納得できていない人に声をかけて疑問を解消し、共通認識をつくる役割を自然と担うよ

うになった。続けている理由は、人のつながりが何より楽しいからだと言語。座右の銘は「一期一会」。夢追塾に入ったことは人生最大の転機であり、仕事一辺倒だった日々から、心でつながる世界へと視野が広がった。踏み出して本当に良かったという。これからは、子育て支援やシニアの孤立防止など、人の役に立つ活動に力を注ぎたいと静かに決意を語ってくれた。

会社の外で
広がった私

はがまりこ
芳賀 眞理子さん



「人を大切に」という言葉が強く印象に残った。自立を急ぎがちな学生の私にとって、「人を頼ることも必要であり、対話を通じてこそ考えが深まる」という教えは大きな救いとなった。将来は、自分もまた誰かに頼られる存在になりたいと強く感じている。また、卒塾後も信念を持ち、夢を追いつける姿に心を打たれた。これから社会の一員として働くことへの不安は、地域を支える喜びや期待へと変わり、自分なりの志を持って歩んでいくと決意した。

しばたいぶき
インタビュー／芝田 伊吹
(北九州市立大学経済学部3年生)



夢追塾で活動する姿を拝見して、常に挑戦し続ける姿勢に強く心を動かされた。新しい環境に飛び込み、仲間と本音で向き合いながら前へ進む姿は、私にとって憧れだ。うまくいかない時も諦めず、何度下がつてもまた前に進もうとする「頑張り続ける力」は、言葉以上に大きな説得力があった。周囲に寄り添いながら道を切り開いていく姿勢は、私の背中を押してくれた。私も、変化を恐れず挑戦し続けられる人になりたいと思う。

やのにこ
インタビュー／矢野 仁香
(北九州市立大学経済学部3年生)



20期プロジェクト紹介

むかし食道



料理を通して
昔から今へと続く
大切な事を未来に
繋ぎ安心できる
関係を育みながら
交流できる場づくり
内村典子・上甲香・
高野愛美・西山幸四郎・
楢原博文・宮崎吉輝

YouTube



キャンプファイヤー



ジビエを火種に
繋がり場を
増やす活動

赤嶺公誠・石田篤頼・
富田誠二・前田久徳・
吉村太志

YouTube



楽しみながら活動中の卒業生（一部紹介）

18期/ヒストリーランチ

健康維持の為、楽しく外出する機会づくりとして春と秋に歴史講座とまち歩き等を企画しています。これまで小倉城庭園書院棟などで3回行いました。

19期/北九新発見フォーラム

昨年7月キックオフイベント開催。以降2ヶ月に一回ペースでSNSスキルアップ会議を重ね、インスタ（5月からnoteも）で北九州の魅力を発信中。

えだみつ読書カフェ



今日より少し元気になり
明日も頑張ろうと
思える世代を超えて
本で語り合う
居場所作り

江口哲郎・大塚絹子・
新田令子・細川忠広・
眞鍋孝輔

YouTube



レジリエンスを身につける

北九州市立大学 マネジメント研究科 松永 裕己

この10年ほどで「レジリエンス」という言葉をよく耳にするようになりました。「一般には「回復力」や「復元力」と訳されますが、その本質は「しなやかな強さ」にあります。たとえば柳の枝は、暴風に揺さぶられても折れることなく、積もった雪の重みにしなりながらも、それを鮮やかに振り落として元に戻ります。レジリエンスとは、まさにそのような強さのことです。この考え方が社会全体で



広く意識され始めたのは2010年代のことです。2011年の東日本大震災を経て、2013年に制定された「国土強靱化基本法」では「強くしなやかな国民生活の実現」という指針が掲げられ、「ナショナルレジリエンス」という表現が登場しました。国際的にも、同年のダボス会議において「レジリエントダイナミズム」というテーマが打ち出されています。私たちが「強さ」を語るとき、「鋼のような」といった決して揺るがない硬質なイメージを持ちがちですが、硬度が高すぎるものほど、限界を超えた瞬間にボキリと折れてしまいます。今求められているのは、予期せぬ衝撃を

しなやかに受け流し、吸収しながら、素早く回復できる社会のあり方なのです。私たち個人についてはどうでしょうか。人生には挫折や失敗、不慮の災難がつきものです。そこで挫けず、回復し、さらなる充実へと繋げるためには何が必要なのでしょう。一つは、小さく頼れる相手や場所を増やすことです。自身も障害を抱える医師の熊谷晋一郎氏は「自立とは依存先を増やすことである」と述べています。もう一つは、生活や仕事の中に「あそび」をつくることです。車のハンドルに「あそび」があるからこそ急旋回による事故を防げるように、私たちの生にもゆとりが必要で、タイプやコスパが至上命

題とされる現代において、「あそび」は無駄として排除され、「依存」は甘えとして遠ざけられがちです。しかし、その先にあるのは、「見強そうदैいて、実は極めて脆く折れやすい姿ではないでしょうか。

多忙な日常を縫って参加した夢追塾での時間は、塾生のみなさんにとって大切な人生の「あそび」であつたはず。そしてここで得た仲間、新しい「依存先」、すなわち信頼のネットワークとなるでしょう。一人ひとりがレジリエンスを育んでいくことは、巡り巡って地域、ひいては社会全体のしなやかな強さへと結びつきます。みなさんの活躍が地域のレジリエンスに繋がることを期待しています。

大学生
北九州市立大学夢追塾
第20期生

背中を見る人プロジェクト紹介

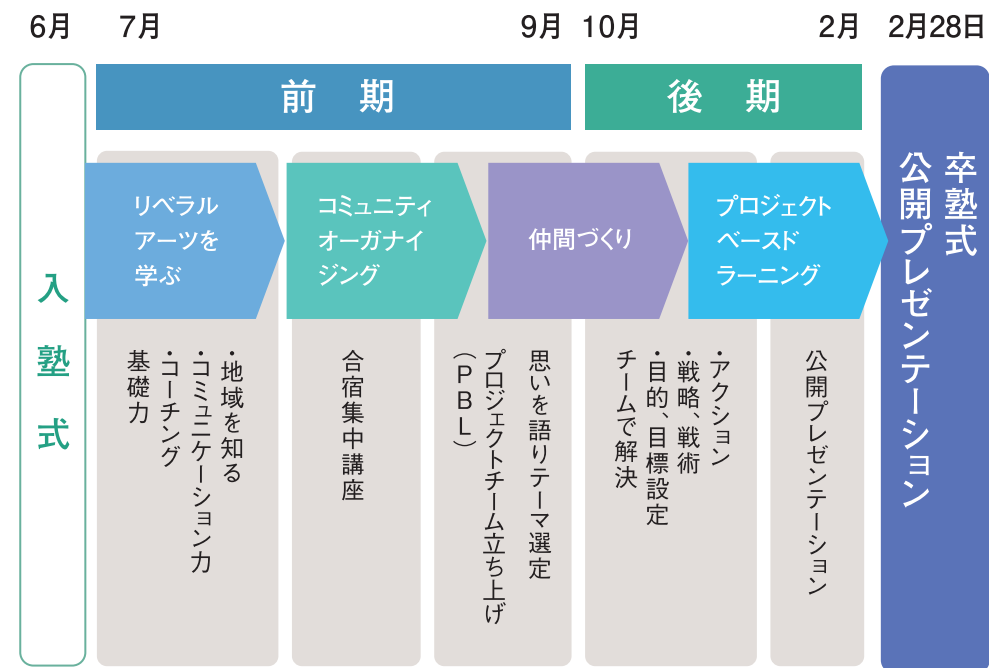
我々、北九州市立大学経済学部松永ゼミの学生は、「背中を見る人プロジェクト」として、夢追塾に参加しました。時にはみなさんがプロジェクトを作っていく過程を観察し、時には1対2で対話をし、時には発表に対するフィードバックを行いました。また、課程終了後には、夢追塾で学んだことやこれからの夢について塾生にインタビューを行い、記事を作成しました。こうした活動を通じ、塾生と学生はお互いにプラスの影響を与える関係を築けてきたように思います。企画し実践することも学びです。観察することも学びです。世代を越えて対話することも、大きな学びです。この冊子はそうした学びの結果をまとめたものです。夢追塾の魅力と共に、活動をすぐそばで見えた学生から見た塾生の姿をお伝えしたいと思います。

北九州市立大学 経済学部
松永ゼミ生一同

20期 リベラルアーツ 講師紹介

- 1 社会起業大学・九州校 教頭 阿武 勲
 - 2 北九州市政策局Z世代課長 柏木 佳奈子
 - 3 九州工業大学 未来思考実証センター 研究職員 博士(工学) 山崎 駆
 - 4 北九州市立大学大学院マネジメント研究科長 教授 松永 裕己
 - 5 NPO法人未来社会総合研究所 理事長 齋藤 貞之
 - 6 原田・川原法律事務所 弁護士 原田 美紀
 - 7 九州大学大学院芸術工学研究院 ストラテジックデザイン部門 助教 羽山 康之
 - 8 (社)北九州市未来づくりラボ 理事長 宮地 弘行
 - 9 政策局DX・AI戦略室DX推進担当 課長 徳光 崇
 - 10 シニアチューバー ロコリ
 - 11 副都心黒崎開発推進会議 会長 山口 典浩
 - 12 北九州市政策局WomanWill推進室 次長 田端 亮平
 - 13 夢追塾 9期 卒塾生 織田 由紀子
- 【合宿指導】NPO法人コミュニティ・オーガナイズ・ジャパン コミュニティ・オーガナイザー 中村 果南子
【他地域オンライン研修】地域活動応援塾くるめ 江上 憲一
【他地域視察】NPO法人 中間市地域活性化協議会 中間市子どもサミット

年間スケジュール



共に学んだZ世代課パートナーズ

仁禮智(にれさとし)

若者の目線で参加し、出会いが混ざり合い新しい種火が生まれる場だと感じました。夢追塾は北九州に灯る光。その熱や光がまちの未来を静かに動かしていくと信じて応援をし続けます。

足達凜花(あだちりんか)

多世代の方と関わりながら新しい挑戦や人との繋がり大切さを感じ、学びの多い時間となりました！

野津颯翔(のづはやと)

塾生の方々と交流や講師の方の話を通して多くの気づきや学びを得る事が出来ました。

溝上誠也(みぞうえせいや)

それぞれの個性が輝きこれから本当の地域社会に出るための準備の場としてとても良い場所だと感じました。塾生の方々の目がキラキラ輝いていて楽しそうにしている雰囲気が私自身とてもエネルギーになりました！

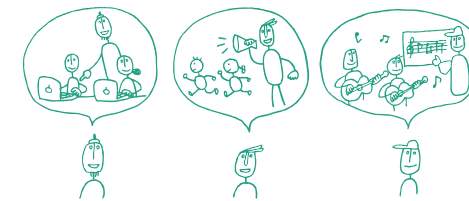
学びのポイント

楽しく、互いに、体験から学ぶ

夢追塾は、楽しく学ぶことをモットーとし、熱い思いを持った仲間と交流を深める場でもあります。仲間と楽しみながら取り組むことで学びが深まる。ここが魅力です。

POINT 1 自分を活かしてお役に立つ

これまで職場や趣味で培ってきた**知識や経験**、ネットワークなどの能力を地域で役立てます。



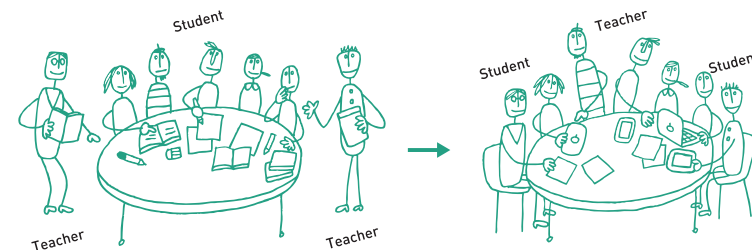
POINT 2 体験から学ぶ

現場におもむいて調査・研究を行ったり、地域で活躍している団体の活動を実際に**体験**しながら学びます。



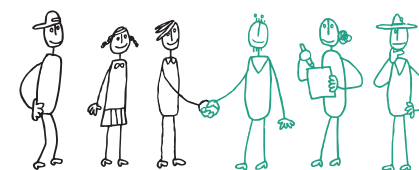
POINT 3 塾生同士で学び合う

年齢、肩書きにかかわらず、塾生同士がフラットな立場で**互いに学び合う**仕組みがあります。



POINT 4 若者と互いに学び合う

大学生などの**多世代**にも関わってもらい、違う感性から得られる「気づき」や「発見」を大事にします。



POINT 5 まち全体がキャンパス

夢追塾は**まち全体**が学び舎です。北九州市内のさまざまな施設を活用し、多様な学びの場を提供します。

